

事業報告書 (平成29年度)

事業名 たけべマルシェ

団体名 たけべおこしプロジェクト 担当者名 雨宮 宏美

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

●日 時:平成29年11月19日(日)10:00~15:00

●場 所:建部町親水公園

●参加対象者:子どもから高齢者まで

●人 数: 250人

●内 容:

・「たけべのごちそう 食べ物屋さん」

たけべおこしプロジェクトが作成した『たけべぐらし』(たけべのお店を紹介した冊子)の取材を通してつながりのできた店舗を中心に出店を依頼。11店舗がたけべの素材を使った料理など、ここでしか食べられない手づくりのごはんやお菓子を販売した。

・「ハンドメイドの 小物・雑貨屋さん」

地元の障害者の作業所や個人で手づくりをしている方の小物・雑貨の販売。

・「Stage たけべびと」

地元の「たけべはっぼね太鼓」の演奏とコラボレーションして行った地元の若手書道作家による書道パフォーマンスでは、「建部人〜輝く一瞬の時を 繋がる今日の時を」の文字。また、建部の伝統芸能である獅子舞の演舞や高校生や子どもたちによるダンスショー、そして、「3世代ディスカッション」では、建部町制20周年に埋められたタイムカプセルを2月に開封するにあたり、「これまでの30年とこれからの30年」について5人のパネラーによるディスカッションを行った。パネラーは、30年前の30代が2名、今の30代たけべおこしプロジェクト会長、20代からメンバー1名、10代から高校生1名。高校生パネラーからの、「たけべだからできないではなく、たけべだからこそできることがある。」という発言に、会場全体が感動。その場で、2月に行う「タイムカプセル開封式典」へ我々たけべおこしプロジェクトメンバーと一緒に取り組んでくれるという約束ができた。

・「子どものお店屋さん こどもちっちゃ市」

子ども自身が思いを込めて手づくりしたものを販売した。大人だけのマルシェではなく、子ども達も主役になり、表現する楽しみを知ってほしいと実施。お店の装飾をして商品を並べ、それぞれが小さなお店を展開した。マルシェがスタートすると大きな声をあげてお客さんに呼びかけ、販売をした。最後までお店に立ち販売を続ける子もいれば、飽きて遊

びに行ってしまう子もいた。お店にしなければ、作ったものは売れないことも学ぶ。お客さんとの対話の中で、今度はこんなのを作ったら買ってもらえるのかなど、考えている様子も見られた。

・「つながりを楽しむ 服の交換会」

洋服への愛着や思いをメッセージカードに書いて、洋服と一緒にその思いも次の誰かに手渡すというしくみの交換会。使い捨てにすることなく、できる限り何でも循環させることを伝える。

・「Work shop 体験ブース」

「新聞バッグづくり」「竹のお箸をつくろう!」「フラッグをつくって飾ろう!」の、3つのワークショップを実施した。いずれも地域の方に指導を依頼。建部らしいテーマであることと、作ったものを会場で使えることを目的とした。フラッグづくりのワークショップは、参加者も一緒になってマルシェの会場をつくりあげていくということを伝えられたらと開催した。

・移動図書館「あおぞら号」

市立図書館に依頼した。図書の貸し出しと司書の方による読み聞かせをしていただいた。参加者、特に子どもたちがマルシェをいろんな角度から楽しめるようにという目的で実施。これをきっかけに建部町図書館を日常的に利用されるようになれば、まちの活性化にもつながると考えた。

・赤ちゃんの駅（授乳・おむつ替えスペース）

前回マルシェを実施した際に、「赤ちゃんが一緒だとなかなか外に出られない」「(屋外イベントは特に) 出かけても楽しめないことが多い」という声が聞かれた。乳幼児をつれた方も安心して参加してほしいと、地域子育て支援課に依頼・借用して「赤ちゃんの駅」を設置。

2: ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

・「オール建部」をテーマに、たけべの美味しいものを集結し、たけべならではの体験ができ、たけべの温かい人に出会える場を目指した。その中で、地元の人々は建部の魅力を改めて感じ、この魅力を子どもたちに残していくためにどうすればよいかを楽しく考える場づくりを目的とした。

・参加対象者は、出展者も来場者も子どもから高齢者までを目指した。そして、地域の知恵や思いを次の世代につなぐことを目的とし、ステージやワークショップの内容に工夫を凝らした。

・自然環境に優しいマルシェを目指し、すべての店舗に容器や箸などは再生可能なものを使用するように呼びかけた。また、参加者にはチラシやFacebookなどでマイ箸・マイカップの持参を呼びかけた。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

・出店・ワークショップ・ステージに関わるすべてを「建部にゆかりのある方」に依頼し「オール建部」で実施したことによって、参加して下さった方々に「建部でもこれだけのことができるんだ！」と伝え「建部にはこんなこと（人・店・知恵…）もあるんだ！」と新しい発見をしてもらうこともできた。

・ワークショップで作ったお箸を使い、マルシェで購入したご飯を食べている子どもは、「自分で作ったんだよ。すごいでしょ！」と満足げな様子が見られた。

・「洋服の交換会」が好評だったことにより、毎年ごみゼロをテーマに公民館で実施されている「食器交換会」と合わせて洋服の交換会を実施することが決まった。

・「3世代ディスカッション」の中で、高校1年生のパネラーからの「たけべだからできないではなく、たけべだからこそできることがある。」という言葉から「タイムカプセル開封式典」への協力を約束できた経緯から、実際に2月11日の本番では、建部中学校の2年生3名とともにプレゼンで、建部の良さを伝えてもらうという場を作ることができた。次世代への繋ぎをつくることができた。

・「タイムカプセル開封式典」の会場でも小さなマルシェを開いた。私たちが企画するマルシェに初回からずっと出店してこられた地元の店舗の方が、打ち合わせをする中で主体的にそのマルシェの取り仕切り担当を引き受けてくださった。信頼関係の積み重ねの成果であると感じてとても感動した。

4. 今後の課題と展望

<課題>

マルシェの企画から、多くの時間・力を公民館職員さんに支えていただいたことでマルシェができた。どこの団体もそうなのかもしれないが、たけべおこしプロジェクトでは慢性的に人手不足にあり、常に小さなパイを刻みながら消費される感覚を持ち、活動をしている部分もある。いつも公民館職員さんが熱意を持って伴走し支えてくださることが救いであり、励みとなっていた。仕事を持ち、家族を持つという時間が足りない中で、彼らの存在には感謝しかない。

私たちの目的は「子どもたちの未来のために建部を元気にすること」であり、マルシェはそのための方法のひとつとして行っている。

「たけべおこし(地域づくり)」は「たけべおこしプロジェクト」だけがすることではなく、建部で暮らす一人一人が「たけべをおこす」ものなのだと、メッセージを発信していかななくてはいけないと考えている。建部中学校区の人口は約5800名、高齢化率は42%である。昨年の出生数を考えると、今いる子どもたちが私たちの世代になった時に、どのような地域となっているのか想像がつかない。まずは現状維持からかもしれないが、今できることからしていくしかない。それを、「難しい面倒なこと」ではなく楽しいことと受け取ってもらえるように、メッセージを発信し続けなければならない。自分たちが先頭になって楽しみながら子ども達も楽しませ、活動する仲間を増やしていきたい。

<展 望>

今後も継続的にマルシェを行い、たけべおこしプロジェクトがつくるマルシェではなく、参加者が主役となって一緒につくり上げていけるマルシェを目指していきたい。ただ買い物をするだけのマルシェではなく、ここ建部でしかできないマルシェを追求していきたい。

子ども達が「かっこいい」と思うものを「建部ではできない」と諦めるのではなく、「やればできる!」ということ伝えることは、私たち大人の使命だと感じる。建部という地域の中で、これまで以上に世代越えてつながりを持ち続け、地域の先輩方が持つ知恵や技術を若い世代の関心ごとにつないでいくことで、世代も超えてそれぞれと関係を深めて、まちをつくる力へと変えていきたい。